

にこで



～和手～

2015年秋号 南区地域子育て支援拠点はぐはぐの樹 発行

朝夕は肌寒さを感じる日が増えてきました。大岡川の桜の葉も半分は黄色くなっていて、これからの移ろいが楽しみです。季節柄、感染症の予防に気を付けながら過ごしたいですね。

「まちのほっとスペース」がまたひとつ誕生!!

みつが丘 異世代サロン もりのなかまたち

気持ちの良い秋晴れに恵まれた10月19日月曜日、大岡健康プラザを眼下に望む高台にあるまち“みつが丘”に新たな異世代サロンが誕生しました。

みつが丘は落ち着いた住宅街ですが、高齢者や乳幼児親子にとっては駅や商店街・公共施設があるところへ出向くのが大変ということもあり、住民が気軽に集える場があるといいなという声がありました。そしてこの度、民生委員で赤ちゃん訪問員でもある山本さんが中心になって、半年ほど前から準備が進められ、とうとう念願かなって異世代サロンがオープンしました。会場は「みつが丘中央」バス停の前にある、森さんのご自宅の一室をお借りしています。町内会館がないというハードルを森さんのご厚意によりクリアすることができたということです。



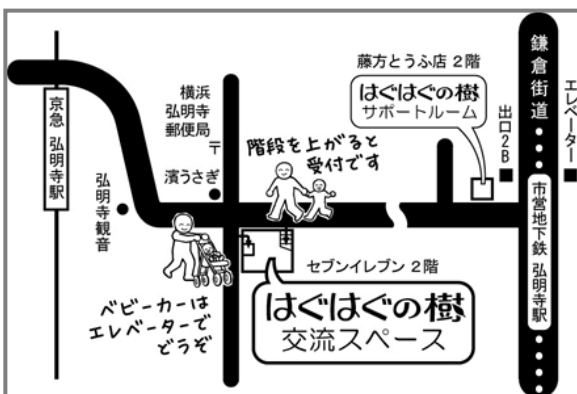
当日は0歳～4歳のお子さん9名、60歳以上の方10名を含む34名が参加し、スタッフや関係者を合

わせ51名が集う大盛況になりました。簡単なゲームで気持ちをほぐした後、自己紹介をして交流を深め、「今日のうんちく」ということで「みつが丘」の地名の由来が披露され、和気あいあいとした盛り上がりの内に終了しました。

パワー溢れるスタッフの皆さんによる異世代サロン。これからは様々な取り組みにチャレンジしていきたいとのことで、大いに楽しみです!



スタッフさん手作りの
ウェルカムボードが目印です!



「にこで～和手～」第15号 【発行】

南区地域子育て支援拠点はぐはぐの樹（サポートルーム）
〒232-0056 南区通町4-115 アイライン弘明寺2階
TEL:720-3655 FAX:715-3815
MAIL: info@haghagnoki.jp

年4回発行しています。ご意見やご感想をお寄せください。また、はぐはぐの樹ホームページにバックナンバーを掲載しています。

「子ども達と楽しむ 絵本とわらべうた」



平成28年2月16日(火)

10:00~12:00 (受付開始 9:45)

はぐはぐの樹サポートルーム研修室

子ども達の豊かな感性を育む読書。その入り口として、乳幼児の居場所における絵本などの設置やおはなし会の開催は大きな役割を担っています。それぞれの居場所の特性にあった取り組みの工夫、読み聞かせのスキルアップのポイント、わらべうたの実演・実習等、内容盛りだくさんの講座です。ぜひご参加ください。(先着15名。参加費は無料です。)

★参加申し込み受付★

1月5日(火)10時より、①お名前 ②ご所属 ③連絡先電話番号を、ファックス(715-3815)または電話(720-3655)、メール(moushikomi@haghaagnoki.jp)でお知らせください。

はぐはぐの樹 作り物サポーター

日中お子さんが通園している利用者さんや地域の有志の皆さんが毎月第1木曜日10~12時ははぐはぐの樹研修室に集まって、手作りおもちゃやプログラム・イベントで使うもの等を作成する「作り物サポーター」として活動しています。これまでに牛乳パックの電車や、ペットボトルのガラガラ、人形の布団や着替えの服、おもちゃ収納袋等、色々なものを作ってくれました。

もし皆さまの支援場所で必要な“作り物”がありましたら、一度ご相談ください。

また、サポーターとして活動して下さる方も募集中です。工作や縫い物がお好きな方もそうでない方もぜひ一度見学にお越しください。



報告

2015年度 はぐはぐの樹 支援者向け講座 第1弾

「利用者との“距離”を考える ~援助境界(バウンダリー)とは~」

8月24日(月)午後、はぐはぐの樹交流スペース

で行われた研修会には、37名の子育て支援に関わる方々が参加しました。講師の山本 由紀 先生は、遠藤嗜癖問題相談室の代表として依存症の方やそのご家族に関わる一方、社会福祉士、精神保健福祉士等の専門家養成にも携わっておられて、非常に難しいテーマでしたが、分かりやすく講義していただき参加者に大変好評でした。(右欄参照)

●参加者の感想●

- * 子育て支援に関わるスタッフとして、境界線が重なる一歩手前、寄り添うことが大切という部分が印象的でした。でもこの関係は、きちんと自覚していないと境界線が崩れてしまう危うさがあるということを知らされた。様々な背景を抱えている利用者も増え、相談の内容もヘビーになっている中で相談担当だけが抱え込まないような環境づくりも必要ということを学んだ。
- * とても大切なお話を聞かせていただきました。“近所のおばちゃんのお話”と“援助職”の共存の難しさを感じていたので、今日のお話は立ち位置としてもとても勉強になりました。
- * 援助することは自分のためにもなる機会だと知った。境界線の難しさをあらためて考えられた。常に意識していこうと思いました。

援助する姿勢とは…

- * 相手の人生や生活に共感しながらそばに居ること
- * 自分も実はいろいろに支えられ、一人ではないことを実感するプロセス
- * 自分の中にある豊かな人間性に
出会う機会

◆講義内容(一部抜粋)◆

- * 援助的関わりにおける原則
- * 境界線(バウンダリー)の考え方やパターンについて
- * 共依存関係とは
- * バウンダリーが曖昧になると起こること
- * バウンダリーを意識しよう
- * 自分資源の活用の仕方
- * 傾聴を大事にしながら自己開示
- * 経験をみがく 他

